

奄美の「たまり場」を視察

聖徳大学教授ら

創年の生きがい対策で

創年(創造的に生きる
中高年)が生きがいを持
つて暮らせるまちづくり
を研究する、聖徳大学(千
葉原)の宮坂いち子教授
ら三人が二月二十七日、
三日間の視察のため奄美
に来島した。

PS7-16

同大学は二〇〇三年から創年の生きがい対策と人材活性化の研究を進め、生きがいづくりの場として「たまり場」(NPO法人全国まちづくり協会)を各地に設置している。現在奄美では五カ所にたまり場が設置され、中高年の憩いの場となっている。視察はそれぞれなたまり場がどのような形の交流拠点として機能しているかを調査する目的。

宮坂教授らは二十八日に筭利町佐仁集落と外金久集落を訪ね、お年寄りから長生き村と呼ばれる根拠を調査した。一日は名瀬市の創年のたまり場第一号の「ともたちの家 花とおしゃべり」(篠原初子代表)を視察。いつもたまり場に集まる地域住民らと昼食を囲みながら意見交換した。篠原代表(左)は「ここでは教えたり教えられる、たまり場の定着、増加を期待した。今後のたまり場もたくさんの方が集まる場として機能している」と話し、今後のたまり場の定着、増加を期待した。



友達の応援があつて続けられる」と話した。視察後、宮坂いち子教授は「奄美には横のつながり、農作業など自然に触れる機会、学校行事への参加など高齢者にも活躍できる場があることが分かった。現在あるたまり場もたくさんの方が集まる場として機能している」と話し、今後のたまり場の定着、増加を期待した。

「花とおしゃべり」を視察した宮坂いち子教授(左)ら